

# 株式会社TOSCOM

Pick Up!

平成26年度

## 事業計画名

市場ニーズに対応した革新的健康サポーターの種類拡充

## 概要

スポーツ人口の増加や高齢化が進み、日本における健康志向が高まっている。

本事業では生涯丈夫な体で過ごすことを目的とした、3次元シリコンテーピングサポーターの種類拡充、開発、生産体制強化を図る。

## 分類

＜対象類型＞ ものづくり技術  
デザイン  
立体造形  
複合・新機能材料  
＜事業類型＞ 試作開発＋設備投資

## 成果

近年の高齢化社会と健康志向の高まりを応えていくため、長年培ってきた靴下のノウハウを応用し、快適安全に使用できるサポーターを開発、販売を開始した。

サポーターの市場には、編み組織を工夫したサポーターや、縫製方法を工夫したサポーターが多数存在しているが、日本スポーツ医療の第一人者である整形外科医吉松俊一先生監修のもと根本的に他社と異なる革新的サポーター3次元シリコンテーピングサポーター（HOLZAC：ホルザック）（特許申請中）を開発できた。



# 好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

## 株式会社TOSCOM（長野市）

靴下の製造技術をもとに健康サポーターを開発。  
販売ルートも新規開拓し、信頼のブランド構築を目指す。

### 東京靴下からTOSCOMへ、 工場長から社長へ

株式会社TOSCOMの前身は、東京靴下株式会社の長野工場でした。疎開移転により、1944年に千曲市で操業開始。現在の長野市篠ノ井に移転したのが1970年。



大型サイズ対応の編み機

靴下メーカーとして、一時は長野と横須賀に工場を持ち、800名を擁するまでに成長しました。しかし、1973年のオイルショック、バブル崩壊、やがてアジア諸国の台頭が始まり、靴下づくりは、厳しい時代を迎えるようになります。

「2006年当時、私は先代の父から工場長を引き継いでいましたが、東京本社を経営者から、この長野工場を買わないか、と話を持ちかけられました」と北原俊社長は振り返ります。従業員約100名の生活への責任。靴下業界の将来への見通し。悩んだ末の2008年。銀行融資の目処も立ち、思い切って工場を買い受け、独立を決断。社名も心機一転TOSCOMに変更し、新たなスタートを切りました。

### 健康サポーターの信頼を育み、 長野県健康長寿に貢献



サポーターの独自ブランド



北原社長は工場長以前に商社マンの経験が長く、「これからのメーカーは、お客様から言われたモノをつくっているだけ

ではダメ。販売力や企画力を含めた、総合的な経営力が試される」と考えていました。そこで同社が満を持して開発したのがHOLZAC®(ホルザック)という自社ブランドの健康サポーターです。



つま先かがり機

開発のきっかけは、海外出張で多忙な日々を過ごしていた北原社長が、ある日、膝を痛めたことに始まります。地元の著名なスポーツ医療の医師に相談したところ、テーピングだけでピタリと痛みがなくなりました。このテーピング効果を同社の靴下づくりの技術で実現できないだろうか。同社は、医師の監修や長野県柔道整復師会の協力を得て、何回もの試行錯誤を重ね、2年間かけて開発に成功しました。

平成26年度ものづくり補助金では、この健康サポーターの大型サイズ需要に応えるべく、大型対応の編み機を導入しました。売上も順調に伸びています。

「いまの販売ルートは、全国の柔道整復師会の中でも製品を気に入っていただいた先生方からの販売が中心です。時間はかかっても、信頼関係を築き、しっかりとブランドを育てていきたい」と語るのは、この製品開発の責任者でもある北原統括部長です。

「世の中の膝や関節の痛みを少しでも解消して、その先に、腰の痛みまで解消できる製品の開発に挑戦したい。そして最終的には長野県の健康長寿に貢献できるようなブランドでありたいと思っています」。



仕上げ機



### 株式会社TOSCOM

代表 代表取締役社長 北原 俊  
設立 2008（平成20）年2月  
資本金 2,000万円 従業員数 73名  
本社 長野市篠ノ井塩崎130-1



TEL.026-292-2140 FAX.026-292-6721

URL.<http://www.toscom-inc.co.jp/>

事業内容 靴下を中心としたニット製品の企画・製造・卸・販売